

SDGs 未来都市・横浜の取組について

1 SDGs 未来都市・自治体 SDGs モデル事業の概要

SDGs 未来都市は、地方創生に資する地方自治体による SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組を推進し、日本の SDGs モデルを構築していく都市であり、その中で特に先導的な取組を自治体 SDGs モデル事業としています。

SDGs 未来都市：29 都市、自治体 SDGs モデル事業：10 事業（5 月 1 現在）

2 これまでの経緯

平成 30 年 6 月 SDGs 未来都市・自治体 SDGs モデル事業「ヨコハマ SDGs デザインセンター事業」選定
11 月 横浜市市民協働条例に基づく共同事業者の公募・選定
平成 31 年 1 月 「ヨコハマ SDGs デザインセンター」運営開始
3 月 「ヨコハマ SDGs デザインセンター パートナシップフォーラム」開催

共同事業者：(株)神奈川新聞社、(株)テレビ神奈川、(株)tvk コミュニケーションズ、凸版印刷(株)、(株)エックス都市研究所

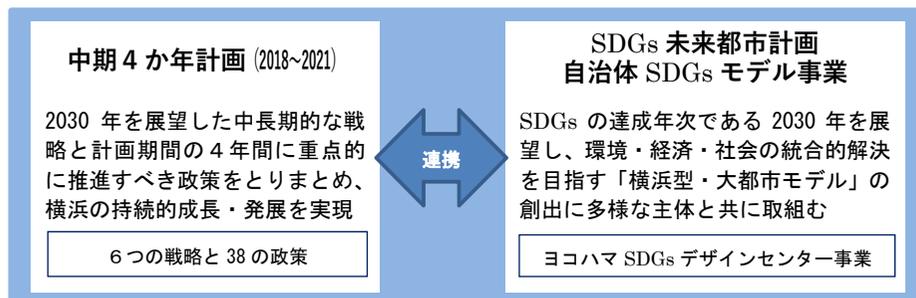
3 取組推進の方向性

中期 4 か年計画（2018～2021）においては、あらゆる施策で SDGs を意識し取組を推進するものとしています。

また、SDGs 及び SDGs 未来都市を推進するため、市長を本部長とする「横浜市 SDGs 推進本部」（事務局 温暖化対策統括本部、政策局、国際局）を 4 月に設置しました。

今後は、推進本部を中心に、「中期 4 か年計画（2018～2021）」の各取組と「ヨコハマ SDGs デザインセンター事業」等を車の両輪とし、全庁一丸となって着実に推進します。

そして、横浜の魅力・ブランド力向上を図るため、国際的なビッグイベント開催のチャンスをいかして「SDGs 未来都市・横浜」の成果を国内外へ発信します。

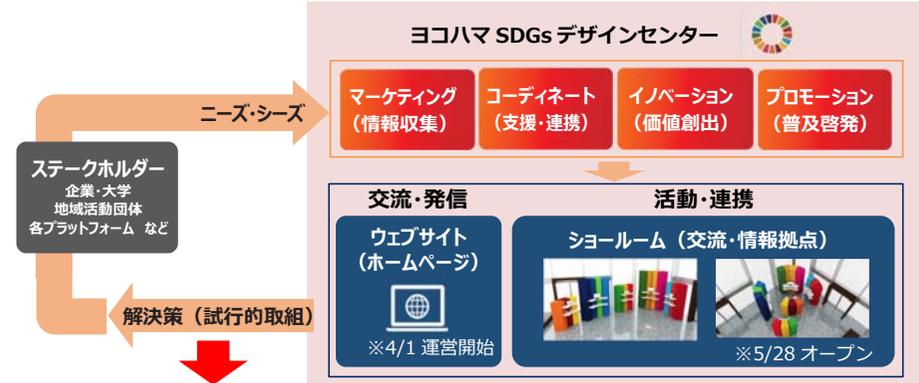


SDGs 未来都市・横浜の実現

～環境を軸に経済・文化芸術による新たな価値・賑わいを創出し続ける都市を実現～

4 ヨコハマ SDGs デザインセンターについて

ヨコハマ SDGs デザインセンターは、パイロットプロジェクト（試行的取組）を通じて、企業や大学、地域などのニーズ（地域課題等）やシーズ（企業技術・知見等）を分野・組織横断的につなぎ、様々なステークホルダーと連携し、環境・経済・社会的課題の統合的解決を目指す組織です。



(1) パイロットプロジェクト（試行的取組）

【 】：実施又は協力事業者・団体

- ① **地域内移動手段の充実（旭区若葉台で実施中）**

団地内にオンデマンドバスを導入し、子育て世代・高齢者などの快適な移動環境の形成【若葉台まちづくりセンター・ソフトバンク】
- ② **地域における女性活躍社会の実現（磯子区汐見台で実施中）**

ICT を活用した短時間勤務を職住近接で実現、新しい働き方「ショートタイムテレワーク」を提案【ソフトバンク】
- ③ **脱炭素化・海洋環境保全を目指す木製ストローの普及**

大気中の CO₂ を吸収した木材を原料とする「木製ストロー」の普及を通じて、脱炭素化・海洋におけるプラスチックごみ問題の意識啓発に取り組む「ヨコハマ・ウッドストロープロジェクト」を実施【アキュラホーム】
- ④ **食品ロス等の廃棄物の有効利用を進める資源循環型エコサイクル**

食品ロス等から飼肥料を製造・活用するための実証実験、飼肥料提供先の農地等の多世代交流の場としての活用、それらによる地域コミュニティの活性化などにつながる仕組みを構築【三井住友銀行】

(2) プロモーション（7～8月にイベントを通じて、SDGs を体感できるキャンペーンを展開）

- ①「第 2 回ヨコハマ SDGs デザインセンター パートナシップフォーラム」（8/1～2）
デザインセンターの様々な取組を通じて、SDGs 未来都市・横浜の魅力を発信
- ②「みなとみらいスマートフェスティバル 2019」（8/2 18:30～20:00）
多くの集客が見込めるみなとみらい 2 1 地区で「SDGs 未来都市・横浜」や「Zero Carbon Yokohama」を広く発信するイベント